

Atlas polskich strojów ludowych. 16 vols. Wrocław, Polskie Towarzystwo Ludoznawcze, 1955. 30.8×22.0cm <383. 134-A-1~16>

本書は、第二次世界大戦後のポーランド国家の全域を対象とし、この領域内に存在する伝統的民俗衣装のすべてを詳述しようとするものである。

本書は、ポーランドを五つの大きな地方に分けている。すなわち、(1)ポモージェ（ポメラニア）、(2)ヴィエルコポルスカ（大ポーランド）、(3)シロンスク（シレジア）、(4)マゾフシェとシエラチ、(5)マウォポルスカ（小ポーランド）。そして、この五つの大きな地方を、民俗衣装の伝統的様式にしたがってさらに細かい地方に分け、それぞれに1分冊を割当てている（ポモージェ＝11地方、ヴィエルコポルスカ＝7、シロンスク＝8、マゾフシェ・シエラチ＝10、マウォポルスカ＝24）。つまり、本書の企画によれば、ポーランドの民俗衣装の伝統的様式は基本的に60に分類されうることになり、本書も完成の暁には60分冊となるはずである。

刊行は、「ポーランド民俗学協会」が総力を傾けたもので、「文化・芸術省」の後援を受けている。編集主幹にユーゼフ・ガイェクを配し、各分冊の執筆にはそれぞれの専門家が当たっている。

本館所蔵分は16冊で、その内訳は次の通りである。「ヴィエルコポルスカ＝4分冊」（シャモトゥーウィ、ジェルジツィ、クヤーヴィ、ミェンジジェチ・バビモストの4地方）、「シロンスク＝2分冊」（プシチイナ、ドルニー-シロンスクの2地方）、「マゾフシェ・シエラチ＝4分冊」（ウォヴィチ、ピョトルクフ、オポチ、クルピユフの4地方）、「マウォポルスカ＝6分冊」（ザグジャーナ、クシチョヌフ、ジェシュフ、スピシュ、シチャブニーツァ、サンドミエシュの6地方）。各分冊の構成はほぼ統一されており、章だてと各章の内容は、おおむね次の通りである。序において、当該地方の地理的位置及び地方領域の歴史の変遷が説明される。第1章では、その地方における民俗衣装の現状が語られ、概して、伝統的衣装が日常生活の中から消え、また細部において多少変化している実状が述べられている。第2章は当該民俗衣装の歴史的概観で、その衣装様式の発生時期とその後の様式の変化が概説される。第3章はその衣装が使用される領域の画定。第4章は男性衣装の全体的概観で、幼児、少年期、独身青年期、結婚式、既婚後の衣装及び、各種祭式用の衣装の特徴が展開される。次の第5章では、男性衣装の細部の叙述、つまり頭部の飾り、シャツ、衿あき、ズボン、上着、外套、靴などの様式。次いで第6・7章では、女性衣装の全体的概観とその細部が男性衣装の場合と同様に叙述、図示される。民俗衣装の素材と制作・縫製に関する項は第9章、そして最後の章では、ここで扱っている衣装に関係する文献・資料の簡単な紹介がなされている。写真・図版が豊富で、英文と露文のレジメが各分冊に付されている。（植田）